

グルカン投与が泌乳牛に与える影響

畜産研究センター

小池正充、家木一

-1,3-1,6 グルカン（以下 グルカン）を泌乳牛に経口投与し、その後の産乳成績および免疫機能に与える影響について調査を行った。供試動物は、当センター飼養の乳中体細胞数が 10^5 個/ml 以上の乳牛 5 頭を用いた。投与期間は 21 日間とし、グルカンを日量 400 ml 経口投与した。調査項目は乳量と一般乳組成分および血清中のナチュラルキラー細胞（以下 NK）活性誘導能について行った。なお、飼養形態および飼料給与は、当センターの慣行法に従った。その結果、乳量と体細胞を除く一般乳組成分については、グルカン投与による差異は認められなかった。一方、体細胞数は 5 頭中 4 頭で減少しており、また 5 頭中 3 頭において免疫機能の指標の一つである NK 活性の高い誘導能が見られた。以上のことからグルカンの乳牛への投与は、泌乳量や乳組成分に対し悪影響を与えない上、ヒトやマウスで認められている免疫賦活効果を乳牛でも同様に発揮しうる可能性を示唆する結果となった。

畜種：牛、分類：その他、キーワード：グルカン